



# 日本国際教育学会

## JIES NEWSLETTER

February 2003 No.14

### ニュースレターダイジェスト

1. 学会長挨拶
2. 事務局移転のお知らせ
3. 新役員決定
4. 第13回大会報告
5. 2002年春季研究大会ハイライト
6. 2003年春季研究大会のご案内
7. 事務局だより
8. 学会紀要『国際教育』第9号原稿募集
9. 図書紹介



第13回大会のひとこま

### 戦争と平和のはざまの国際教育

会長 延岡 繁(中部大学)

第13回日本国際教育学会秋季研究大会が昨年11月16・17両日に早稲田大学国際会議場を会場として開催され、参加者一同、和やかな雰囲気の中に無事終了したことは喜びに絶えません。大会の準備実行委員長であった碩学、鈴木慎一先生の御厚意と御尽力に深く感謝申し上げます。特に特別講師として、中国中央教育研究所から(副所長)謝国東氏、(成人教育センター長)頼立女史、(成人教育センター員)孫誠女史、英国グラモーガン大学教育学部教授デーヴィッド・ターナー博士を御招待され、すばらしい講演を耳にしたことでした。また、日本側からもそれに呼応して、信州短大の庵谷利夫教授、創価大学の李燕教授、国土館大学の岩間浩教授、国立教育政策研究所主任研究官の永田佳之氏、玉川学園大学の朱浩東助教授などが提案者、討論者として特別参加して下さったことです。その他、大会のために貴重な時間を割いてお手伝い、また、研究発表や会場で司会など大会の運営を手伝ってくださった会員の皆様に厚くお礼申し上げます。大会は一部の活動家のためのもではなく、学会員みんなで参加し、お手伝いして盛り上げて行くものだと思いまた。(大会の様子は別項の「第13回大会報告」を参照)

第1日目の課題研究の後、2002年度の定期総会が開催されました。特に出席会員数と委任状提出会員数の集計数が国内在住会員数の3分の2を超え、数年ぶりに「(本)総会」が開催されたことを特記しましょう。司会をはるばる海を越えて参加されたシアトル大学東アジア校理事長の金城栄喜博士が選出され、その卓越した経験とウイットに富む人格の発露により、極度に限定された1時間以内に全ての予定事項の審議と議決が行われ、出席者全員による拍手喝采により、これも無事終了いたしました。(別項の「第13回日本国際教育学会総会議事録」を参照)

さて、マッカーサー元帥が終戦直後、占領軍総司令官として日本に到着した直後、記者団の質問に対して、「日本は12歳の少年だ」と語ったと言い伝えられています。わが日本国際教育学会も、創立12年目で、まさに「12歳の少年」です。未熟、未完成の短所もありますが、将来、必ず成人し、社会人となって活躍する可能性を夢として、懸けて行きたいと思います。その後、日本の国はマッカーサー軍の占領終了後、数十年にして、世界一の経済大国に成長し、ナンバーワンに成るには成って喜んでみたのですが、どうもそれが狐につままれたようで、その「つけ」が今、われわれに押し掛かっているようで、何とも言えない低迷し、混乱した社会で、わたしは今、窒息しそうな感じで生きております。

一方、外に目を向けると、今また大戦争が起こりそうです。それがわが学会と何の関係があるのかと反問される方もおられるかもしれませんが、わが学会員の研究課題は必ず「(時代の)×××(地域の) (課題)」というように、時間、空間、事象が対象とされています。つまり、戦争などが起こると中断されるものばかりです。戦争が起これば外国旅行が極端に制限され、奇妙なことに外国の研究など馬鹿にされ、軍事予算が急騰し、教育予算が極端に制約されます。総てが戦争という「国家総動員的な規模の人殺し事業」が優先され、倫理道徳観の逆転が行われ、殺人者に勲章と年金が配られます。

先学期、わたしは「学徒出陣」「神風特攻隊」「聞け、わだつみの声」「戦艦大和の最期」などのビデオを学生に見せ、感想文を書かせましたが、現代の学生は太平洋戦争のみならず、「日本の歴史」などの過去からは、何も学ぶものがないと考えているようでした。つまり、新しく流行として入ってくる「珍奇なもの」には関心が湧きますが、既に忘れられ、捨てられたゴミのようなものは発掘しても、価値はないと思っているようでして、本当に驚きました。これが教育の現実だとするとわたしたちの研究は何なのか、次世代を築く彼らに何ほどの意義があるのだろうかと考え込みました。

先日の秋季研究大会でも話題となりましたが、1930年代の「新教育運動」とは何であったのかということ。当時も、「新しい人間教育」の理念が学者により日本にも紹介されたのですが、「時勢や国体に合わないもの」と決め付けられ、導入はダメでした。結局は「軍国主義教育」に押しつぶされ、夢として流れました。そして、軍部の台頭と太平洋戦争は教育学者の力だけでは防げなかったのです。終戦となり戦後のアメリカ式民主主義教育の時代となりましたが、ベトナム戦争当時など、アメリカの政策を少しでも批判すれば、「お前もアカか？」などと上司や同僚からも問われ、結局は国の教育行政のワクつき路線に引き戻された経験は年配の方にはあったかもしれません。

いや、大戦争の準備が時代の風潮となっても、「戦うことの無意味さ」と「学ぶことの尊さ」を、血を吐いてでも教えて行くのが国際教育学者だと、わたしは思います。ある人種を、ある国民を、ある集団を「何かの真しやかな条件」で敵と断定して断絶するよりも、研究の対象としてでも融和して学び合い、モノ、ヒト、カネ、チエ、などを交換し、経済活動の対象にまで変えた方が「はるかに良い」のではないかと思います。その意味でわたしたちの国際的な研究は大いに振興させなければなりません。その意味でわたしたちの研究は世界平和の一翼をも担うものだと自負しています。

## 事務局移転のお知らせ

新執行部発足にともない、日本国際教育学会事務局は、2002年8月1日をもって、下記に移転致しました。

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 電気通信大学 留学生センター 志賀幹郎研究室気付

TEL：0424-43-5738（直通） FAX：0424-43-5742（事務室）

E-mail：shiga@fedu.uec.ac.jp（志賀幹郎事務局長）

nayamaz@sf7.so-net.ne.jp（山崎直也事務局長補佐：会費・名簿に関するお問い合わせ）

## 新役員決定

下記のように、日本国際教育学会新役員（任期：2002年8月1日～2004年7月31日）が決定しました。

### 新役員一覧

#### 1. 学会事務局

会長 延岡 繁（中部大学・スウェーデン）  
副会長 江原 裕美（帝京大学・日本）  
事務局長 志賀 幹郎（電気通信大学・日本）  
事務局長補佐 山崎 直也（杏林大学【非】・日本）  
吉田 重和（早稲田大学大学院・日本）

#### 2. 常任理事

石川 啓二（山梨大学・日本） 岡田 昭人（東京外国語大学・日本）  
小澤 周三（東京外国語大学【名誉】・日本） 鈴木 慎一（早稲田大学・日本）—渉外担当  
西村 俊一（東京学芸大学・日本） 宮脇 弘幸（宮城学院女子大学・日本）  
アダム・コミサロフ（尚美学園大学・米国） 王 智新（宮崎公立大学・中国）  
鍾 清漢（川村学園女子大学・台湾） 朴 三石（朝鮮大学校・朝鮮）  
ロバート・アスピノール（滋賀大学・英国）

#### 3. 紀要編集委員会

委員長 岡田 昭人（東京外国語大学）  
副委員長 アダム・コミサロフ（尚美学園大学）  
編集幹事 鴨川 明子（早稲田大学大学院）

#### 4. 会計監査

2名を現在交渉中です。

#### 5. 選挙管理委員

委員長1名，委員4名を現在交渉中です。

# 第 13 回 大 会 報 告

## 1 . 第 13 回日本国際教育学会総会議事録

司会 志賀 幹郎 事務局長

- 1 . 開会の辞 江原 裕美 副会長
- 2 . 実行委員長挨拶 鈴木 慎一 委員長
- 3 . 学会長挨拶 延岡 繁 会長
- 4 . 議長選出

司会者より議長選出について会場に諮問があり金城栄喜会員を全会一致により選出し同人は議長に就任した。

議長は就任の挨拶に続いて、審議に先立ち本総会の定足数と出席者数について、事務局にその報告を求めた。志賀幹郎事務局長よりつぎのとおり報告がなされた。

正会員総数 92 名  
出席者数 22 名  
委任状 35 名

議長はただいま報告のとおり、日本国際教育学会規則第 5 条第 2 項の定めるところにより所定の定数を充足しておりますので本総会は適法有効に成立している旨宣言した。

議長は、本総会は規則改正をとまなう重要議案が議題として提案されているので慎重を期する見地から本総会議事録を作成するので議事録作成人と同署名人を指名したい旨提案し承認を受け、同作成人に山崎直也、同署名人に江原裕美両氏を指名した。その後議長は次のとおり上程議案を決定した。

### 【総会議案】

#### ・ 報告承認事項

- 2001 年度事業報告（案）について
- 2001 年度決算報告（案）について
- 監査報告
- 紀要第 8 号編集委員会報告について
- 役員選挙結果の報告及び新役員・事務局員紹介
- 2002 年度活動計画（案）について
- 2002 年度予算（案）について
- 学会規約の改正について
- 2003 年の研究大会（春季・秋季）の開催について
- 紀要第 9 号の編集方針について
- その他

- 1 . 議長は各議案の審議上提案議案について、相互に相関連があるので第 1 号～ 2 号、第 3 号～ 4 号、第 5 号～ 6 号、第 8 号～ 9 号議案を一括上程することを提案し承認を受け、順次そのように審議する旨宣した。
- 2 . 議長はまずはじめに第 1 号～ 2 号議案を一括上程し、ただちに事務局より提案趣旨の説明を求め、岡田昭人前事務局長より同議案の説明がなされた。その後鈴木慎一大会実行委員長より、予算額 150,000 円、決算額 0 円となっている寄付金の勘定科目について 2001 年度に早稲田大学に申請した寄付金の交付が承認されたか否か現時点では不明であるので、交付されている場合は、速やかに通常会計に繰り入れるとの補足説明がなされた。

3. 議長はその後、質疑に先立ち監査報告を求めた。同報告は小川彩子（2002年8月19日監査）、小宮明彦（2002年8月24日監査）の両会計監査人に代わり別紙監査報告書のとおり江原裕美副会長より報告がなされた。
4. 議長は以上の上程議案について質疑を受ける旨図り、質疑応答の後討論を終結し採決を宣言し同議案は原案のとおり全会一致で可決決定した。
5. 議長は第3号～4号議案について上程し、一括して提案趣旨の説明を求め、第3号については宮脇弘幸紀要第8号編集委員長より編集作業等に関する報告がなされた。同4号については柿沼秀雄選挙管理委員長に代わり江原裕美副会長より役員選挙の結果及び新任役員・事務局員等の報告と紹介がなされた。  
議長は同議案について質疑応答の後採決し全会一致により本各議案を可決決定し承認した。
6. 議長は次に第5号～6号議案を一括して上程し事務局の趣旨説明を求めた。志賀幹郎事務局長より報告説明がなされた。  
その後議長は質疑応答の後採決し同各議案を全会一致により可決決定した。
7. 議長は第7号議案規約改正について上程し事務局より提案趣旨の説明を求めた。  
志賀幹郎事務局長より説明報告がなされた。その後議長より規約全体の法的整合性及び字句修正変更等について専門的見地からの補足修正案が提示された。

【学会規約（改正）はつぎのとおり】

第5条第3項に「総会が成立しない場合は仮決議とし、総会終了後1ヵ月以内に異議が出されない場合は本決議とみなす」を挿入。現行規則の第3項～5項はそれぞれ第4項～6項に繰り下げる。

第6条第3項の現行条文の最後に「このほかに、日本国籍1名、外国籍1名の理事を理事会の決議で特任することができる」を挿入する。またこれにともない学会規則の「日本人」「外国人」という表現をそれぞれ「日本国籍」「外国籍」と改める。

第6条第4項に「本会は顧問を置くことができる。顧問は会長が委嘱し任期は会長の在任期間とする」を挿入。現行規則の第4項～9項はそれぞれ第5項～10項に繰り下げる。

第6条第5項の本文を「編集委員長は常任理事の中からまた委員及び幹事は専門領域を考慮して正会員の中からそれぞれ理事会の議をえて会長が委嘱する。副委員長は編集委員の中から互選する」とする。

現行規則の第9条の本文から「ただしその決議は郵便による投票をもって行なうものとする」を削除する。

第10条に続いて「附則1 本改正案は2002年11月15日開催の総会終結後より施行する」を挿入する。

現行規則第6条第7項の本文から「正会員及び賛助会員から各1名を」を削除し、「互選し」を「選任し」に改める。

現行規則第4条第3項後段に「会員は住所等移動の際は速やかに届出るものとし、通知等は届出先に送付すれば到達したものとする。会費滞納者は本総会議決権を行使することができない」を挿入する。

現行規則第8条第1項中「任期中であっても」の次に「本総会において」を挿入し「連名」を削除し「議決」に修正する。

議長は以上各案について質疑応答の後採決をし、同各案は上程案に修正を加え全会一致で可決決定した。なお、規約の全体的な整合性を図る見地からの字句修正等変更については併せて議長に一任するとの付帯条件を付して可決した。

8. 議長は第8号～9号について一括して上程し、事務局の提案趣旨の説明を求めた。志賀幹郎事務局長より次の通り説明報告がなされた。

【第8号議案 2003年春季研究大会について】

日 時：2003年4月19日(土)9時30分～16時30分  
場 所：東京学芸大学国際教育センター  
実行委員長：西村俊一 会員

【第9号議案 紀要第9号編集方針について】

岡田昭人編集委員長より配布資料「日本国際教育学会紀要第9号編集委員会報告」にもとづいて紀要第9号の編集方針が提案された。

その他参考意見として鈴木慎一本大会実行委員長より、海外の日本に関する研究センターに学会紀要を送付販売してはどうかとの提案がなされた。

9. 議長は上記各議案について、質疑を求め質疑応答がなされその後、採決を図ったところいずれの議案も全会一致をもって可決決定した。

上記は第13回日本国際教育学会総会議事録であることを認証する。

2002年11月16日

第13回日本国際教育学会総会 議長 金城 栄喜

2. 2001年度(第12年度)決算報告(→p.7参照)

3. 2002年度(第13年度)予算案

(期間：2002年8月1日～2003年7月31日，単位：日本円)

収入の部

項目	予算額	備考
前年度繰越金	286,185	郵便振替口座132,940/郵貯151,608/東京三菱1,165/その他472
会費	1,125,000	
利子	500	
紀要販売	60,000	紀要バックナンバー販売
寄附金	150,000	早稲田大学80,000等
雑収入	60,000	春季研究大会参加費等
収入合計	1,681,685	

支出の部

項目	予算額	備考
旅費	80,000	理事会，編集委員会
消耗品	20,000	印章，封筒等
郵送費	160,000	
会合費	135,000	
大会開催補助費	100,000	秋季大会補助金
印刷費	650,000	紀要・名簿印刷代
庶務費	150,000	
)謝礼金	120,000	学生アルバイトを含む
)コピー代	20,000	
)雑費	10,000	
予備費	36,685	
小計	1,331,685	
次年度繰越金	350,000	
支出合計	1,681,685	

日本国際教育学会 第12年度決算報告

(期間：2001年8月1日～2002年7月31日，単位：日本円)

総収入金額 1,523,488 円  
 総支出金額 1,237,303 円  
 差引残額 286,185 円

収入の部

項目	予算額	決算額	詳細
前年度繰越金	763,420	763,420	東京三菱 43,129、郵便貯金209809、郵便振替口座510010 その他472
会費	1,125,000	708,000	10,000円×43口、5,000円×20口、7,000円×4口、5,000円×3口
利子	500	68	
紀要販売	60,000	20,000	紀要販売
寄付金	150,000	0	
雑収入	60,000	32,000	春季大会大会参加費
その他	0	0	
収入合計	2,158,920	1,523,488	

支出の部

項目	予算額	決算額	詳細
旅費	100,000	108,454	理事会、編集委員会
消耗品	30,000	16,810	封筒
郵送料	230,000	156,340	NewsLetter、紀要、春季大会案内、理事会通知他
会合費	50,000	105,194	理事会、編集委員会、選挙管理委員会
大会開催補助費	100,000	100,000	第13回大会(100,000)
印刷費	700,000	573,430	NewsLetter12号・13号、紀要7号、春季大会要旨収録
謝礼	100,000	128,500	事務局アルバイト代、発送作業アルバイト代
コピー代	50,000	25,500	
雑費	30,000	21,565	文具他
予備費	318,946	1,510	振り込み手数料
小計	1,758,946	1,237,303	
次年度繰越金	400,000	286,185	郵便振替口座132940、郵便貯金151608、東京三菱1165、その他472
支出合計	2,158,946	1,523,488	

上記の通り報告いたします。

2002年8月9日

事務局長

岡田 昭人 

監査の結果、正確であったことを認めます。


2002年8月19日

会計監査

小川 彩子 

2002年8月24日

会計監査

小宮 明彦 

## 4. 第13回研究大会を終えて

大会準備委員会委員長 鈴木 慎一（早稲田大学）

2002年度の秋季大会は、早稲田大学の国際会議場を会場として開催されました。従来通り、前日に理事会が開催され、新執行部の活動方針案を巡って、議論が行われました。その結果を踏まえて、翌日の定期総会に、活動方針案・予算案が提出され、恙無く承認されました。理事の方々のご苦勞に謝意を表したいと思います。今年度の総会は、委任状を含めてではありますが、正規に成立しました。新執行部にとって、幸先のよい出発になったと思います。

研究大会プログラムは、個人研究の部は、若い研究者からシニアな研究者まで、様々な発表がありました。企画された公開シンポジウムは、歴史としての20世紀：自己認識と他者認識というテーマの下で、国際新教育連盟の再評価をしていただきました。

発言者は、岩間浩国士館大学教授（日本国際教育連盟日本支部事務局長）、永田佳之国立教育政策研究所研究員、デーヴィッド・ターナーグラモーガン大学教授（前世界教育連盟会長）の方々に、国際新教育運動とユネスコとの関わり、新教育の理念・実態・課題など、多彩なテーマに沿った興味深い発言が続きました。この日の討論の記録を作ることができるとよいと思います。

大会運営に関する財政措置及び規模に関しては、学会として多少配慮する必要があると思います。参加費を上げること検討してよいし、定期的に寄付してくれる財団なり書店なりを探すのも工夫の一つでしょう。並いる理事達がどのような科学的活動を日頃しているのか私にはわかりませんが、科学研究費を受けることができる立場にいる人は、学会の活動にそれが結びつくよう配慮して下さると、状況が少しは変わるのではないかと思います。会場校に万事任せるという方針は、あまり長く続けるべきではないように思います。

いずれにしても、新執行部のご努力で総会が成立したことは嬉しいことでした。会場側の稚拙な対応にもかかわらず、寛大に万事を措置して下さった会長、副会長、事務局長に謝意を表します。また、前副会長が親しく発表会場に足を運ばれて、終始、討議に、手伝いの学生達の振る舞いに温顔をもって臨まれていたことは、嬉しくありがたいことでした。紙面をお借りして、御礼を申し上げます。

最後になりましたが、早稲田大学大学院学生、学部学生の諸君にもお礼を申し上げます。

## 5. 第13回大会決算報告

### 収入の部

項目	金額	備考
学会補助金	100,000	学会事務局より準備金として
参加費	74,000	大会参加費(会員・一般2,000×27,学生1,000×20)
寄付金(早稲田大学)	70,000	大会運営学生アルバイト手当ほかへ
収入合計	244,000	

### 支出の部

項目	金額	備考
郵送費(切手、封筒)	48,952	総会通知ハガキ代(7,000)を含む
印刷費	66,737	プログラム(13,324),大会発表要旨集(45,885)ほか
会場・会場機器類	58,025	
学生アルバイト代	50,000	学生7名分
シンポジスト昼食代	5,000	
雑費	9,881	休憩室お茶,司会者飲み物など
事務費	5,405	コピー,文具など
支出合計	244,000	



## 2002 年春季研究大会ハイライト

吉田 重和 (早稲田大学大学院)

2002 年春季研究大会が、2002 年 4 月 6 日(土)、早稲田大学総合学術情報センター国際会議場の共同研究室 7 で開催されました。今回は、午前中に「フリースクールにおける自治活動の役割と意義」(吉田重和会員)、「メキシコ高等教育機関の変容と今日的課題」(鳥井康照会員)、「Changing Face of Teachers' Unions in Japan」(Robert Aspinall 会員)の 3 件、午後に入り「中国におけるドルトン・プランの移入と展開」(日暮トモ子会員)、「中国都市部における親の教育期待」(金塚基会員)、「教師の研修のあり方についての日中比較研究・序論」(張梅会員)、「Body Educational の方法化について(その 2)」(鈴木慎一会員)の 4 件の、バラエティに富んだ聴き応えのある研究発表が行われました。どの研究発表においても、フロアからの核心を突いた質問(若手研究者の発表の場合、それはそのまま先学からの温かい指導と助言となりうるものですが)と、それに答えようとする発表者の間で熱のこもったやりとりがなされ、少人数の参加者ながらも非常に活気のある研究大会となりました(文中敬称略)。

## 2003 年春季研究大会のご案内

日時	2003 年 4 月 19 日(土) 9:30~16:30
場所	東京学芸大学国際教育センター 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 TEL: 042-329-7725 (直), FAX: 042-329-7722 アクセスは、 <a href="http://crie.u-gakugei.ac.jp/access/index.html">http://crie.u-gakugei.ac.jp/access/index.html</a> をご覧ください。
参加費	無料
発表申し込み	大会プログラム作成及び会場設営の必要上、発表希望者は、葉書にて氏名、所属、発表テーマを 3 月末日までに上記「国際教育センター」の西村俊一宛にご連絡下さい。 発表者は、各自、報告用レジュメを 50 部準備し、大会当日参加者に直接配布して下さい。会場校で「要旨集」を作成する予定はありません。
懇親会	大会終了後「懇親会」を予定しています。参加者には、下記の参加費をご負担いただく予定ですので、予めご承知おき下さい。 一般会員：3000 円 学生会員：2000 円
実行委員長	西村 俊一(東京学芸大学)

なお、2003 年 11 月開催予定の第 14 回大会の会場校は、現在理事会にて選定中です。決定次第、皆様にお知らせいたします。

## 事務局だより

### 1. 紀要定期購読会員募集

この度、日本国際教育学会では、学会紀要『国際教育』（B5版、年1回刊）の定期購読サービスを開始いたしました。わが国でも他に類を見ない国際教育の学術専門誌として、最新の知見を提供する『国際教育』を、会員の皆様のご所属機関などでぜひ定期購読いただきたく、お願い申し上げます。

紀要の定期購読に関する資料をご希望の方は、事務局までご一報下さい。折り返し書類一式（定期購読のご案内、バックナンバーの目次リスト、振込用紙 etc.）をお送りさせていただきます。

### 2. 新入会員紹介

2003年4月19日～2004年2月 日の間に開催された4回の常任理事会（2002年度第3回常任理事会、2003年度第1～3回常任理事会）で入会が承認された新入会員をご紹介します。

#### 【国内在住者】

山口 隆正（拓殖大学・正会員・日本）、東ヶ崎 忠（東亜同文社・賛助会員・日本）、長野 英昭（早稲田大学大学院・学生会員・日本）

#### 【海外在住者】

高藤 三千代（Columbia University・学生会員・日本）、Claudia N. Labbe（University of Wisconsin-Madison・学生会員・チリ）、Aniya yshiki Paul（Asociacion Peruano Japonesa・正会員・ペルー）、Jorge Jhoncon（Universidad Nacional de Educacion・正会員・ペルー）、Juan Miyahira（Universidad Cayetano Heredia・正会員・ペルー）、Luz Chung Tong（Colegio Peruano Chino Juan XXIII・正会員・ペルー）、Luz Marina Sito（Universidad Nacional de Educacion・正会員・ペルー）、Miyashiro Miyashiro Juana（Colegio Hideyo Noguchi・正会員・ペルー）、Okada Oscar（Instituto Educa・正会員・ペルー）、Pedro Makabe（Universidad Femenina del Sagrado Corazon・正会員・ペルー）、Kobayashi Maria Laura（Instituto de Educacion・正会員・アルゼンチン）、Da Rosa Renata Shimizu Locatelli（Faculdade de Medicina de Marilia・正会員・ブラジル）、Kasamatsu Emi（National University of Asuncion・正会員・パラグアイ）、くりた メルセデス（Colegio Japonés Paraguayo・賛助会員・パラグアイ）

### 3. JIES Mail News 配信開始 & 学会ホームページ開設のお知らせ

この度、日本教育学会事務局では、学会の最新情報を、会員の皆様に E-mail でお届けする「JIES Mail News」の配信を開始することとなりました。配信を希望される方は、事務局長補佐の山崎直也（[nayamaz@sf7.so-net.ne.jp](mailto:nayamaz@sf7.so-net.ne.jp)）までメールにて、その旨お知らせ下さい。

また、学会公式ウェブサイト（ホームページ）が開設されることとなりました。主要コンテンツの制作は既に完了し、現在国立情報学研究所「学協会情報発信サービス」（<http://www.soc.nii.ac.jp/>）の利用許可を待っている状態ですが、近日中に皆様にご覧いただくことができるかと思えます。

サイトの URL（アドレス）は、今後の学会からの通信物にてお知らせする予定ですが、上記の JIES Mail News にご登録いただいた会員には、いち早く情報をお届けすることが可能です。

#### 4. 連絡先・ご所属変更をお知らせ下さい。

4月からの新年度を迎えて、連絡先・ご所属等に変更がある会員は、事務局長補佐の山崎直也までメール（nayamaz@sf7.so-net.ne.jp）またはFAX（03-3936-2723）にてお知らせ下さい。

### 学会紀要『国際教育』第9号原稿募集

紀要編集委員会では、紀要『国際教育』第9号の発刊に際し、紀要に掲載する自由投稿論文、調査報告、教育情報、書評、資料紹介などを募集いたします。（締め切りは、2003年5月10日）

投稿希望の会員は、下記の要領にしたがって投稿して下さい。詳しくは、「紀要投稿要領」をご参照下さい。なお、「紀要投稿要領」をお持ちでない方は学会事務局にご照会下さい。

#### 1. 投稿要領（論文・その他）

掲載論文は、口頭発表の場合を除き、未発表のものに限る。

使用言語は、日本語、英語、中国語とする。

執筆分量は、和文では、論文 28,000 字以内、調査報告及び教育情報 4,800 字以内、書評・資料紹介 2,400 字以内。英文では、それぞれA 4ダブル・スペース 22 行で 50 枚以内、9 枚以内、4 枚以内。中文では、それぞれ 16,000 字以内、2,700 字以内、1,200 字以内。

投稿原稿には英語 500 語以内の要旨を添付し、原稿と要旨を各 3 部（うち 2 部は複写、匿名とする）お送りください。

なお、第二段審査では修正原稿（ハードコピー）とともにフロッピー原稿（英文要旨を含む）も提出していただきます。

#### 2. 問い合わせ先・原稿送付先：

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学 岡田昭人研究室

TEL：042-330-5404 E-mail：aokada@tufs.ac.jp

#### ADDITIONAL GUIDELINES FOR ENGLISH MANUSCRIPTS

1. For guidelines on appropriate style and format of manuscripts, please refer to the Publication Manual of the American Psychological Association, 4<sup>th</sup> Edition.

Examples:

Jones, P. (2002). Meeting the educational challenges of the information age.

New York: Phoenix Publishing.

Brendle, A. (1999). Leveraging knowledge: Educational programs in corporate

America. Harvard Business Journal, 18 (1), 555-594.

2. All English manuscripts must include a Japanese abstract.
3. Authors for whom English is a foreign language are recommended to have their manuscripts carefully proofread by a native English speaker before submission. Writers who submit linguistically incomprehensible manuscripts risk having their papers rejected on these grounds.

## 図 書 紹 介

明石陽至, 宮脇弘幸編集解題『日本語教科書: 日本の英領マラヤ・シンガポール占領期(1941-1945)』  
龍溪書舎, 2002年2月, 全6巻, 162,000円(税別).

本書は, 太平洋戦争期にマラヤ・シンガポールを占領した日本軍・軍政部が現地で編纂した現地人のための日本語教科書を, 編集者が80~90年代に現地調査で収集できたものすべて(26冊)を全6巻に復刻したものである.

南方占領地での日本語教育は, 植民地下台湾・朝鮮, 「満洲国」・中国占領地などの「外地」での日本語教育の経験をもとに実行されたが, 日本語教科書は当時の日本国定教科書をベースにしながら, 戦時下占領地という特殊な状況に対応できる日本語, 現地人育成のための教科書であった. つまり, 「大東亜共栄圏」思想, 日本の「聖戦」の正当化を織り込み, 日本語が分かる現地人要員・技術者の早急な養成に配慮するように編纂された. 従って, 仮名遣いの不統一, 一部の教科書では奥付なしなど装丁面では不備な点も目立つ. しかしそれはそれとして, 戦時下の占領地の人たちが, どのような教育方針, 教育方法でどのような日本語を学んでいたかを実証する基礎的な資料となる. また, 国定教科書, 他の植民地・占領地教科書との比較研究, 植民地・占領地教育史研究, 日本語教育史研究の資料にもなる.

朴三石著『海外コリアン—パワーの源泉に迫る』中公新書, 2002年5月, 全242頁, 780円(税別).

ニューヨークのエンパイア・ステート・ビルを訪れてみると, 周囲にひしめくハンゲルの看板に驚かされる. 200万人が暮らす米国をはじめ, 海外のコリアンはいまや150カ国, 600万人に及ぶ. 自ら事業を興したり, 医師や弁護士など専門職につく者も多い. コリアンが海外に進出して150年, 彼らはなぜ短期間に拡がり, 根づき, 確たる地歩を占めるに至ったのか. その歴史と生活をたずね, パワーの源に迫る.

OECD 著, 御園生純・稲川英嗣監訳『世界の教育改革: OECD 教育政策分析』明石書店,  
2002年10月, 全194頁, 3,800円(税別).

本書は OECD/CERI の教育政策分析 *Education Policy Analysis 2001* の邦訳である. 本書では生涯学習と情報化をキーワードに OECD 各国の教育政策を様々なデータとともに紹介し, Lifelong Learning for All をどのようにしたら実現できるかを検討している.

末藤美津子著『アメリカのバイリンガル教育—新しい社会の構築をめざして』東信堂, 2002年12月,  
全226頁, 3,200円(税別).

本書は, 筆者が2002年1月に東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科に提出した学位論文「アメリカにおけるバイリンガル教育の史的展開」である. アメリカの連邦レベル及び州レベルにおいて多様な形で展開されてきたバイリンガル教育を, 政策と運動のダイナミックな相互関係のもとでとらえていくことをめざした. アメリカのバイリンガル教育がどこから来てどこに行こうとしているのかを言語, 教育, 社会的統合の三つの視点から総合的に検討した本書は, 近年, 日本において急増している日本語以外の言語と深いかわりをもつ子どもたちに対する言語教育のあり方を考える上でも, 一つの手がかりとなるだろう.

日本国際教育学会 Newsletter No.14

編集発行 : 日本国際教育学会 代表 延岡 繁

発行所 : 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学 留学生センター 志賀幹郎研究室気付

TEL : 0424-43-5738 (直通) FAX : 0424-43-5742

発行年月日 : 2003年2月9日